

5月は雨季の只中です。今回の雨季は筆者のウガンダ生活の中でもかなり雨の量が多いと感じました。これまで筆者はウガンダの雨季は日本の梅雨ほど長くは雨が降らずじめじめもしていないと説明してきました。ところが今年は日本の梅雨のように雨が一日中降る日もあり日照が殆どない日もありました。雨季の合間にももちろん晴れ間はあります。ただその直後にかなり激しい雨が降ってきた時もありました。

5月12日に先の選挙で勝利を収めたムセベニ大統領の大統領就任式が実施されました。日本から外務省の大西洋平政務官が出席されました。これについては特別号でご報告します。

今月も日本から多くの訪問者がお見えになりました。また様々な動きが活発に続いています。今月もこのような動きをご紹介します。今月もこのようなお知らせをしたいと思います。

1、ウガンダへの救急車・消防車の供与

日本には日本国内で使われなくなった中古の救急車や消防車を必要とする国に供与する仕組みがあります。

ウガンダに対しては日本消防協会を供与元としてODAのスキームの1つである「リサイクル草の根無償」を活用して令和5年度から7年度にかけての3カ年計画で合計62台の救急車、消防車を供与する計画を実施しています。5月5日、令和7年度前期の案件として救急車6台と消防車7台がカンパラに届けられました。この日筆者はウガンダの受け取り元であるウガンダ保健省のジェーン・アチエン大臣やアバス・ビヤカガバ警察長官、またそれらを実際に活用する地方自治体の人たちとともに引渡式に臨みました。

ウガンダは経済成長が著しく人口の増加も続いています。それに伴い緊急輸送や災害への対応の需要も高まっています。今回供与された車両はウガンダに引き渡すにあたり様々な整備を行いました。そして今回、無事引渡を完了しました。

日本は単にこれらの車両を供与するだけでなく技術指導も実施しています。2025年12月には日本消防協会の皆様が来訪し、ウガンダ側の救急隊員及び消防隊員に研修を実施しました。

今回供与された車両も地方の自治体に引き渡されウガンダ全国で活躍することとなります。ウガンダに対しては、この他にも日本各地の自治体のご尽力により車両が提供された例もあります。しかしながら、ウガンダ政府が立てている全国各地への救急車や消防車の配置計画を満たすにはまだ台数が足りない状況です。今年末までには3カ年計画最後の実施となる車両を引き渡すことを目標としています。



[引渡式の様子]

2、SK-KAWANISHI(株式会社 川西水道機器)の来訪

川西水道機器は香川県高松市に本社をおく水道関連設備の専門メーカーです。水道のジョイント(管継手)を設計から手がけられ、高い技術力とともに日本国内ではすでに大きなシェアを持っています。

海外では台湾に関連会社がありますが、昨年(2025年)、ケニアに現地法人を設立しました。昨年10月と今年4月、ケニアを拠点に隣国のウガンダにも進出すべくウガンダの水道当局などを訪問されました。

筆者も4月21日にカンパラの日本食レストランにて実施された同社の製品説明会にお邪魔して来ました。

ウガンダはアフリカの中では上下水道の普及が進んでいるとされています。確かに首都カンパラや主要な都市では、ナイル川やビクトリア湖を始めとする豊かな水源を活用し、上下水道の設備が一定程度発達しています。しかし大きな都市を出れば人々はまだ雨水や井戸水に頼っているのが現実です。都市にある水道設備も設備の充実や新しい製品、技術の導入は大きな課題といえます。例えば無収入水などへの対策はウガンダでも急務です。

ウガンダの水道関係者の方々は自社の製品を持ち込まれて説明をする技術者の方々と熱心に意見交換されていました。この分野でも日本の技術が活用されることを期待したいと思います。



[ヤマセンでの説明会]

3、Ac-Planta Inc. (アクプランタ社)、スキープンの展開

このコラムではこれまでもスキープンを始めとするアクプランタ社の活動を度々紹介してきました。(2024年8月号をご覧ください。)アクプランタはウガンダにおける商標登録なども済ませ、いよいよ本格的にウガンダでの販売を始めようとしています。

4月27日、金 鍾明(キム・ジョンミョン)アクプランタ CEO/東大大学院特任准教授がウガンダを訪問され、スキープンに関心のあるウガンダ各所を精力的に訪問されました。その中でムセベニ大統領の実弟であるサリム・サレ将軍に対してその製品の有用性を説明する機会に筆者も同席を得ることができました。サレ将軍はNRM(ムセベニ大統領の与党)が政権を握ったときNRA(国民抵抗軍。当時NRMの軍事部門でUPDF(ウガンダ国民防衛軍)の前身。)を指導した国民的英雄です。サレ将軍は現在、ウガンダ経済の発展に尽力されています。その一環で農業振興の観点からアクプランタ社の製品に大きな関心を持たれていました。

今回の説明会においても興味深くプレゼンに聞きいておられたのが印象的でした。日本のアグリテックであるアクプランタ社の製品がウガンダの農業をさらに飛躍させていくことを期待したいと思います。



[サリム・サレ将軍とともに]

4、難民支援:国連機関を通じた支援

このコラムでも何度か取り上げてきましたが、ウガンダは2百万人近い難民を周辺国から受け入れているアフリカ最大の難民受け入れ国です。現在でも難民の流入が続いています。これに対しウガンダは「オープン・ドア・ポリシー」と称し難民や庇護希望者に寛大な政策をとってきています。2百万近い難民ということは現在の横浜市の半分の人口にあたります。実際に難民を受け入れるのは国境地点をはじめ様々な仕組みが必要です。ウガンダ政府は国際機関とも連携して国境地点やその周辺にトランジットセンター、レセプションセンターなどをもうけて当面の庇護を与えると同時に居住地への円滑な受け入れを図っています。これらの政策は地域の安定に大きな貢献

をしています。国際社会からの支援も不可欠となっています。日本は「人間の安全保障」の考え方を旗印としウガンダの取り組みに積極的な支援を行ってきました。

筆者は2025年度(令和7年度)の補正予算として認められた日本からの支援を発表する記者発表を5月7日に行いました。今回は UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)、WFP(世界食糧計画)、IOM(国際移住機関)等を通じて約6百万米ドル相当の支援を発表した次第です。国連機関の活動は効率化が求められるなど様々な批判があるのは事実ですが、ウガンダのような難民受け入れ国にとっては不可欠といえる重要なパートナーです。難民受け入れの実際のノウハウを国連機関は有しています。日本からの支援が難民の困難を少しでも緩和するとともに東アフリカ地域の平和と安定に貢献することが望まれます。



5、ユニークな取り組み 「俺の井戸」

アフリカが現在取り組んでいる課題の1つに水問題があります。このコラムでも日本のスタートアップである SUNDA の取り組みについて紹介させていただきました。(2024年11月号をご参照ください。) 水問題の解決は国連が定めた SDGs(持続可能な開発目標)の1つでもあります。しかし現実には厳しく前進はみられるものの問題の解消にはまだまだ困難があります。

ご紹介させていただいた SUNDA の井戸の管理システムについてもウガンダ各地に展開してきています。それでも絶対的な数はまだ足りません。そこでウガンダにおられる在留日本人の方のアイデアでユニークな取り組みが始められています。既存の井戸に公共水栓設備(SUNDA 付)を立ち上げるには、初期費用が日本円にして百万円ほどかかります。これはアフリカの住民の方々にとって少ない額ではありません。そこで、支援者が資金を負担し設置した SUNDA の製品の井戸を通称「俺の井戸」(正式名称は「My/Our 井戸プロジェクト」と名付けて普及促進を図るといった動きが出てきました。

写真はこのアイデアで設置された井戸の1つです。設置費用の負担を支援者で分担して SUNDA が設置します。その後の維持管理は SUNDA に加え住民が主体となって行うというものです。支援者はこれらの活動をモニターしていきます。このような取

り組みによって少しでも水問題の解決のスピードが上がることを期待したいと思います。

<参考> https://www.sundaglobal.com/news/news/interviewvlo1_jan26.html



[実際に設置された「俺の井戸」]

6、ぬい活、始めました！

在ウガンダ日本大使館ではこれまでもこのコラム以外に様々な発信を行ってきました。このたびこれを支援する強力な参加者を得ましたのでご報告します。それはウガンダにも生息するハシビロコウです！すでに多くの閣僚に挨拶を済ませ、デビューを果たしました。これからウガンダの今を共に見て、体験することになりますのでよろしく願いいたします。なお、少し種明かしをしますとこのハシビロコウは MOYOMOYO 社の製品です。MOYOMOYO は野坂治朗さん・由紀子さんご夫妻がウガンダの女性とともに展開されているブランドです。



[ハシビロコウ:名前募集中です！！]

(以上)